

学力向上拠点形成事業（確かな学力育成のための実践研究事業）
平成17年度 中間報告 【羽島市】

推進地区の概要（平成18年3月現在）

推進地区名	羽島市					
推進校（校数）	小学校	1校	中学校	1校	計	2校
推進校（校名）	羽島市立中央小学校					
	羽島市立羽島中学校					

研究のねらい

羽島市では、この3年間、児童生徒の学力向上に向けた共通課題として全小中学校が、「ねらいを明確にした授業づくり」と「基礎的訓練（読み書き計算等）の場の保障」に取り組んできた。

その結果、各学校において、授業改善と基礎学力定着への工夫が図られ、児童生徒の学習意欲の向上や主体性が見られるようになってきた。昨年度の県学習状況調査（小5,6年、中1,2年で実施）では、ペーパーテストでの学習内容の定着度（正答率）、また質問紙調査での学習への意欲度や授業内容の理解満足度は、概ね良好といえる結果を得ることができた。

こうした状況の本市において、各校が「確かな学力の育成」を具現できるようにするために、実践を交流し合う中で互いがレベルアップできる場を設けることが必要であると考えた。

基礎・基本の定着を図り、主体的な学習を身に付けるための「授業改善」と、望ましい学習習慣を身に付け、学びへの意欲を育てるための「学びの自立へのサポート」を研究内容の二本柱として、本事業を推進し、各学校の「確かな学力の育成」の方策を実効あるものにしていく。

研究の概要

1 研究内容

授業改善

- ・授業力の向上
- ・質の高い学習集団づくり

学びの自立へのサポート

- ・学習意欲を引き出す工夫
- ・学習習慣の育成

2 研究組織

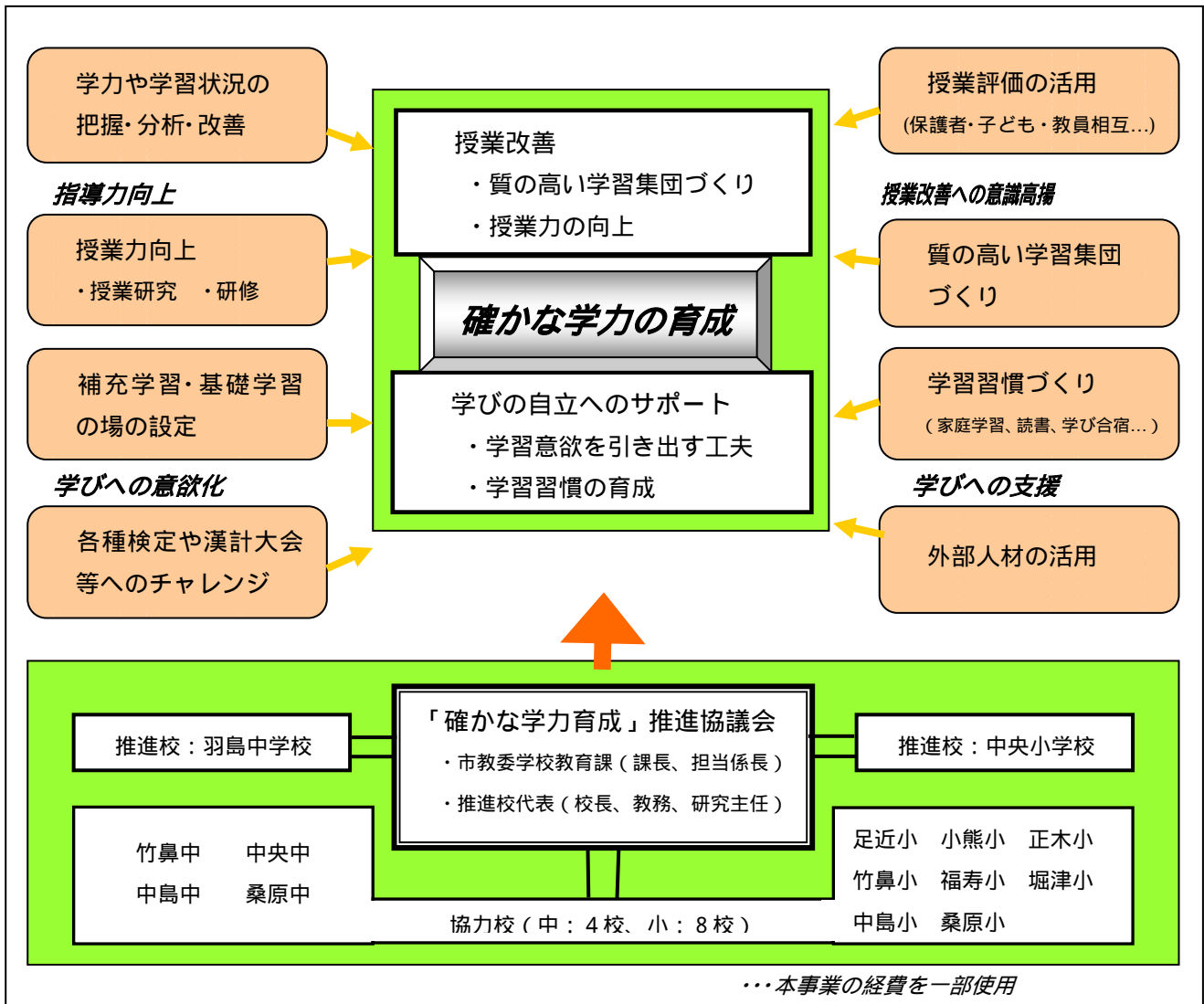
「確かな学力育成」推進協議会

- ・市教委：学校教育課長、指導係長、教務主任会・研究主任会担当係長
- ・推進校：校長、教務主任、研究主任
- ・協力校：教務主任、研究主任

* 「授業改善部会」・・・研究主任会

* 「学びの自立へのサポート部会」・・・教務主任会

【H17 学力向上拠点形成事業（確かな学力育成の実践研究事業）構想図】



3 活動経過

- 5 / 27 (金) 教務主任会 ……本事業の説明、学力向上に関わる教育課程(計画)の交流
- 6 / 23 (木) 研究指導員会 ……本事業の説明、推進校(中央小)の全校研究会への参加
- 7 / 26, 28, 29 「力量アップゼミ」の開催
- ・「学習状況調査の把握・分析・改善について」講話 ・小学校4～6年向け4教科別「指導法の工夫改善講座」
- 8 / 25 (木) 第1回「確かな学力育成」推進協議会
- ・岐阜大学 北 俊夫 教授の講演「学力向上のために」
- ・「学習状況調査の把握・分析・改善について」講話 ・研究内容 , についての実践交流
- 11 / 11 (金) 推進校：中央小 教育公開
- 11 / 22 (火) 優良校視察(教務主任) 京都市立高倉小学校…学校・家庭・地域・大学との連携
- 11 / 25 (金) 優良校視察(研究主任) 滋賀大学附属小学校…確かな学力・学ぼうとする力・
- 1 / 30 (月) 推進校：羽島中 中間報告会(岐教事担当者訪問)
- 2 / 8 (水) 推進校：中央小 全校研(岐教事担当者訪問)
- 2 / 10 (金) 第2回「確かな学力育成」推進協議会(県教委 学校支援課訪問指導)
- ・市教委の研究実践説明、推進校(羽島中、中央小)の提案と協議、協力校の資料提案
- 3月 一年次の成果を公表(推進校・協力校)……市教委HP(一般向け)、支援センターIB(学校間共有)

4. 実践の概要

< 学力向上への方策 8 つの窓から > 各学校で取り組んだこと 市全体(市教委)で取り組んだこと 課題

学力や学習状況の把握・分析・改善

県の学習状況調査などの結果から客観的に把握し、指導内容・指導方法の改善に努めた。

「学力向上」「学習状況の把握・分析・改善」についての研修を実施。

一人一人の学習状況に応ずることや指導方法の改善の面でさらに努力する必要がある。

授業力向上

授業研究や日常の授業交流で「授業のうまい先生」から学ぶ等の研修で、授業力向上に努めた。

「ねらいの明確化」「子ども主体の授業」「授業の組織力」を強調指導。「力量アップゼミ」「優良校視察」実施。

教師間の力量の差がまだ大きく、一人一人の使命感の自覚、切磋琢磨する教師集団づくりで克服を目指す。

授業評価の活用

学校評価や参観時に保護者、学期毎等に生徒、研究授業等で教師間の授業評価を実施、授業改善に役立てた。

市教委訪問で講評の他に教育長・課長が各々の観点で一人一人の授業評価。認めや目標設定に学校が活用。

一年次の各校の成果を交流し、より効果的な活用を工夫して実践する。

質の高い学習集団づくり

基本的な学習姿勢の徹底。めざす姿と指導内容・指導方法を明確にして指導。児童生徒の自治的な活動でも。

意味・値打ちを教えるの学習姿勢の徹底を強調指導。市教委訪問時にできていない場合は再訪問も実施。

「練り合い」等、仲間との考えの交流で高め合える学習集団の育成。各校で学習指導部の機能強化。

補充学習・基礎学習の場の設定 各種検定や漢計大会等へのチャレンジ

週時程に基礎学習の訓練、放課後や長期休業中に補充学習の場を設定し、基礎学力向上に努力。小で漢計大会

や中で各種検定を実施するなど意欲的に取り組める工夫。「どの子ども読み書き計算に挑戦」を提唱。

各校の実践を参考に工夫改善し、基礎学力の向上と学びへの意欲の向上に成果をあげる。

学習習慣づくり

全学校で一斉読書の帯時間を設定。家庭学習習慣をよりよくするために工夫。学び合宿で勉強合宿体験も。

「どの子ども10分読書」「どの子ども自主学習習慣」を提唱。市で「通学・学び合宿事業」を実施。

家庭での学習習慣を充実させる手立てを学習指導部等が中心になって提案し全校態勢で実践する。

外部人材の活用

全学校で学生の教育ボランティアや地域人材を活用し、専門家による授業充実、個別支援、補充学習等で成果。

聖徳学園大との連携協定、文科省の学力向上支援員事業等で環境整備。地域・大学との連携先進校を視察。

本年度の反省や他校の実践から、学生の教育ボランティアの活用方法を工夫改善する。

成果と課題

【成果】 推進校を中心に、授業改善と学びの場の設定が進むなど、学力向上への実践が展開された。

・ 授業研究や授業交流の回数が増加。 ・ 授業外の学びの場が多く設定された。 等

本事業の研究実践を通して、本市の児童生徒の学習に向かう姿勢が高まってきた。

・ H18.1 実施の県の学習状況調査で、テストによる「学習内容の定着度」、意識調査による「学習意欲」「授業の理解満足度」において概ね良好な結果を得ることができた。

【課題】 8 つの窓とした学力向上への方策を吟味・精選する。

・ 学力向上への方策を4つの窓から捉え、それぞれにおいて充実強化する。

推進校と協力校の役割を明確にして、望ましい連携がなされるようにする。

・ 2年次は、推進校2校の教育公開の場を「確かな学力育成推進協議会」として位置付け、研究を深める。